

花 3月～5月

キンボウゲ科

アマズイチゲ

根茎は横に這い、紡錘状にふくらむ。茎につく葉は柄を持って3枚が輪生し、3出複葉である。花茎の高さは15-20cmになり、直径2-3cmの花弁状の萼片を持つ花を1個つける。萼片は白色で8-13枚。花弁はない。近縁のキクザキイチゲに似るが、浅く3葉に切れ込んだ葉の形が特徴である。

春先に花を咲かせ、落葉広葉樹林の若葉が広がる頃には地上部は枯れてなくなり、その後は翌春まで地中の地下茎で過ごすスプリング・エフェメラルの一種。別名「雨降花」と呼ばれており、摘み取ると雨が降るという説がある。



花 4月～5月

ケシ科

ジロボウエンゴサク

地下に径約1センチメートルの塊茎があり、そこから花茎と根出葉が出る。葉は2回3出羽状複葉で、小葉は倒卵形ないし倒披針(とうひしん)形。茎葉は2枚で根出葉に比べて小形である。4～5月、数個の紅紫色花を小形の総状花序につける。花弁には距(きょ)がある。果実は果(さくか)で線形、いくらかくびれて数珠(じゆず)状になる。種子は黒色。山麓(さんろく)、林の道端などに生える。伊勢(いせ)地方ではスミレのことを太郎坊、本種を次郎坊とよんで花どうしを絡み合わせ、ひっかけて勝負する遊びがあり、それが名の由来といわれる。



花 4月～5月

スミレ科

スミレ

種名としてのスミレは、道ばたで春に花を咲かせる野草である。深い紫の花を咲かせる。

花は独特の形で、ラッパのような形の花を横向きかやや斜め下向きにつける。5枚の花びらは大きさが同じでなく、下側の1枚が大きいので、花の形は左右対称になる。ラッパの管に当たるのは大きい花弁の奥が隆起したもので距(きょ)という。花茎は根際から出て、やや立ち上がり、てっぺんで下を向いて花のラッパの管の中程に上側から着く。

